国際連合教育科学文化機関

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群
世界遺産登録年:2017年

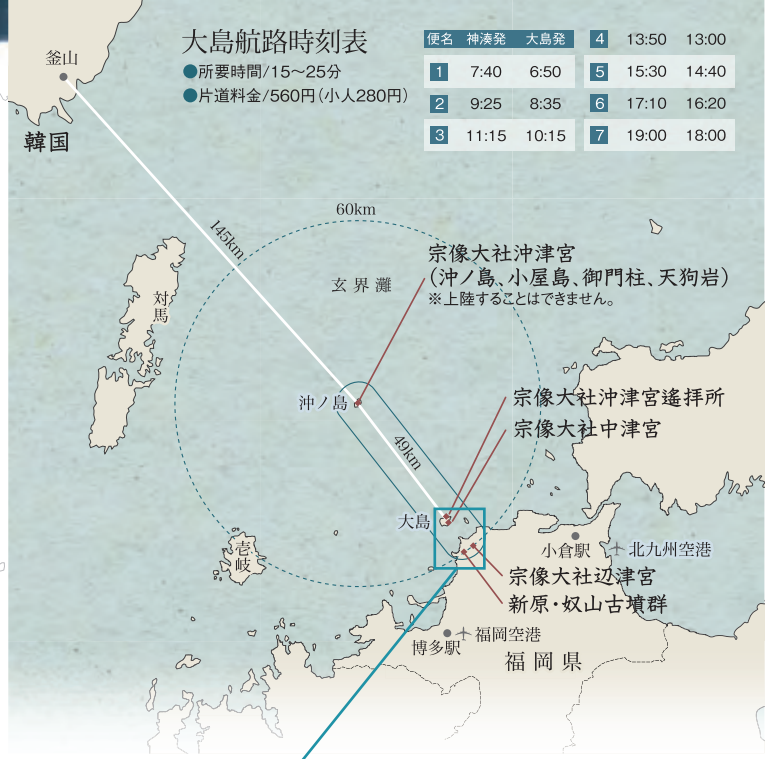
世界遺産

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

大島航路時刻表

●所要時間/15～25分
●片道料金/560円(小人280円)

便名	神湊発	大島発
1	7:40	6:50
2	9:25	8:35
3	11:15	10:15
4	13:50	13:00
5	15:30	14:40
6	17:10	16:20
7	19:00	18:00



展示・解説施設

■宗像大社神宝館
開館/9:00～16:30　年中無休
●沖ノ島の奉献品と宗像大社の歴史

■海の道むなかた館
開館/9:00～18:00　月曜休館*
●遺産群全体の解説と沖ノ島3Dシアター

■大島交流館
開館/10:00～16:00　火曜休館*
●大島の構成資産

■カメリアステージ
開館/11:00～21:00
火曜*および毎月最終水曜休館
●新原・奴山古墳群

*祝日の場合は翌平日休館

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
事務局：福岡県世界遺産登録推進室
TEL：092-643-3162　FAX：092-643-3163
www.okinoshima-heritage.jp

古代祭祀の記録の宝庫

沖ノ島の巨岩群には、膨大な奉献品とともに奇跡的に保存されてきた、ほぼ手つかずの古代祭祀遺跡があります。そこでは、貴重な奉献品が時期ごとに異なる場所に納められていました。4世紀後半から9世紀末にかけての約五百年間に、この島で行われた祭祀がどのように変化したかが分かる、他に例を見ない遺跡です。

7世紀後半には、共通した祭祀が大島や九州本土でも行われるようになります。沖ノ島の神への信仰は宗像三女神への信仰につながり、現代まで守り伝えられました。

海を越えた交流の証

航海安全を願って行われた沖ノ島の古代祭祀の豊富な奉献品は、当時の日本が東アジアの様々な地域・国家と行った活発な対外交流の様子を物語るものです。朝鮮半島や中国大陸、さらにはペルシア(イラン)に由来する品々が調査によって発見されました。

宗像大社にまつられる宗像三女神は、元来この交流の航路を守る神とされます。島国である日本の文化形成において、海を越えた交流は極めて重要な意味をもっていました。

The Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region.

「神宿る島」を崇拝する文化的伝統

九州本土から約60km離れた沖ノ島と、大島および九州本土に位置するその関連遺産群は、古代から現在まで発展し継承されてきた、神聖な島を崇拝する文化的伝統の顕著な物証です。

沖ノ島には、日本列島、朝鮮半島および中国大陸の諸国間の活発な交流に伴い、4世紀後半から9世紀末まで続いた、航海安全に関わる古代祭祀遺跡が残されています。

古代豪族の宗像氏は、沖ノ島に宿る神への信仰から、宗像三女神信仰を育みました。沖ノ島は三女神をまつる宗像大社の一部として、島にまつわる禁忌や遥拝の伝統とともに、今日まで神聖な存在として継承されてきました。

大島の沖津宮遥拝所から望む沖ノ島

宗像地域の人々が育んだ信仰の伝統

宗像大社は、約60kmの広がりを持つ範囲に位置する三つの離れた信仰の場、沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本土の辺津宮から構成される神社です。三宮それぞれが古代祭祀遺跡を起源とする生きた信仰の場です。古代豪族の宗像氏が沖ノ島に宿る神に対する信仰から育んだ宗像三女神への信仰は、今日まで受け継がれています。

イラスト/北野陽子

古代の様子
入海が広がり、大島とともに海上交通の要地でした。

宗像大社中津宮

大島の御嶽山山頂で沖ノ島と共通する古代祭祀が行われ、麓に社殿が造営されました。参道で結ばれた山頂からは、沖ノ島を含む周辺の海域や陸地が一望できます。

沖津宮遥拝所

大島の北岸に位置し、「神宿る島」沖ノ島をご神体として遠くから拝むための場です。空気の澄んだ日には沖ノ島の島影が良く見え、沖ノ島に対する信仰の伝統を象徴します。

宗像大社辺津宮

宗像山中腹の高宮祭場付近で、沖ノ島と共通する古代祭祀が行われ、その後境内に社殿が造営されました。かつて入海だった釣川沿いに立地する、宗像三女神信仰の中心地です。

新原・奴山古墳群

沖ノ島への信仰の伝統を育んだ古代豪族、宗像氏の存在を証明する墳墓群です。前方後円墳5基を含む大小41基の古墳が築かれた台地上からは、大島や沖ノ島へと続く海を一望できます。